心的な役割で分けてみる

多くの人が琵琶湖とともに生きることの価値を感じることができ、その幸せが将来にわたって継承されていく

中間的な目標

誰もが日常の中で、湖との暮らし のより良いあり方を探求できる さまざまな人びとが出会い、学びあい、 多くの人と共有・実践する機会を持てる 湖と人間を考える人びとの活動が持続的に行える

直接的な事業の目標

事業目標1

地域の人々や研究者な ど多くの人による琵琶 湖や湖と人間の研究が 発信される 事業目標2

整った環境で保管されている湖と人間の資料・情報がどこからでも使えている

事業目標3

博物館の事業は、複合的に関係し合っているために、複数の目標に関係してしまうが、中

利用者が実施者になった 多様な交流事業が実施さ れる学びあいの場で情報 交換が行われる 事業目標4

湖と人間の最新情報 が常に得られ現場へ の興味をもつ人々が 増える 事業目標5

館内および館外から も利用がしやすくな り利用者が増える 事業目標6

安心感がある場所 で安定的に継続し た活動ができる

[実施する事業]

【事業目標1】

琵琶湖の魅力を深く掘 り下げ、世界に紹介

世界有数の古代湖と しての琵琶湖の価値 を高める研究の推進

研究成果を国内外に 発信し、琵琶湖の魅 力を人々に伝える

研究の質を高める環 境の整備ならびに研 究の活性化 【事業目標2】

資料を未来に遺し、どこからでも使えるように整備

標本・資料の管理体制の 強化

標本・資料の整理の推進 と公開による利用促進

ICTを利用し、だれで も・どこでも・いつでも 使える博物館を創出 【事業目標3】 みんなで学びね

みんなで学びあう 博物館へ

幅広いニーズに応える 交流事業の充実

出会いの場の創出

「深く学ぶ力」に基づ く琵琶湖学種の支援 【事業目標4】 もっと使いやすい 博物館へ

誰もが楽しみ学べる 博物館展示への成長

「観る」展示から 「観る+使う」展示 への成長

社会の変化や研究成 果を反映させた展示 の成長 【事業目標5】 より多くの人が利用 する博物館へ

ICTを活用した琵琶湖 の魅力とその入口とし ての博物館の紹介

双方向の広報や各種調査・評価による情報収 集と事業への反映

来館しやすい環境の整備

【事業目標6】 博物館の活動を 安定して継続す

老朽化した施設 の改修と災害へ の備え

安定した活動基 盤を確保する仕 組みづくり

事業目標で与えよう 実施する事業内容 10年後に実施されている事業の目標 重点事業を評価する基準 とする社会への影響 事業目標1:琵琶湖の魅力を深く掘り下げ、世界に紹介 ★ 複合分野における研究プロジェクト 湖と人間の関係を考えるための複合分野 世界有数の古代湖としての琵琶湖の 事業目標1 が企画される における新たな視点が提案されている 価値を高める研究の推進 地域の人々や研究 琵琶湖の新たな魅力に気づき、研究 者など多くの人に 1-2 研究成果を国内外に発信し、琵琶湖 琵琶湖地域を対象とした研究にかかわる よる琵琶湖や湖と 人が増える の魅力を人々に伝える にかかわる人を増やす 人間の研究が発信 研究の質を高める環境の整備ならび 琵琶湖博物館でできる研究の幅が広 新たな設備による新たな情報が追加され 1-3 される に研究の活性化 ている 事業目標2:資料を未来に遺し、どこからでも使えるように整備 湖と人間の資料と情報が安全に保管され 資料・情報に安全な収蔵庫環境が確 事業目標2 標本・資料の管理体制の強化 ている場所として博物館の存在理由が認 立されている 整った環境で保管 識されている されている湖と人 2-2 標本・資料の整理の推進と公開によ 館内外からのレフェレンス機能が強 研究・学習などに必要な人が資料・情報し 間の資料・情報が 化されている が適切に取り出せる る利用促進 どこからでも使え 画像を使った資料の情報がどこから 資料・情報がわかりやすく簡便にアクセ ている ICTを利用し、だれでも・どこで **→** でもアクセスできるように整備され スできる も・いつでも使える博物館を創出 ている 事業目標3:みんなで学びあう博物館へ 多様な方が主体的に博物館を利用した交 幅広いニーズに応える交流事業の充 |多様な主体が博物館と一緒に交流事 3-1 事業目標3 業を作り出すことができる 流事業を実施している 利用者が実施者に 博物館を利用する人々が出会いや学 なった多様な交流 博物館の利用者間で、その活動の情報交 出会いの場の創出 **➡** びあいを契機に新たな研究や事業を 事業が実施される 換や相談を博物館やフィールドで行う 生み出すことができる場を提供 学びあいの場で情 「深く学ぶ力」に基づく琵琶湖学種 体験的な琵琶湖学習の提案・実施が 子どもたちの多くが体験的な琵琶湖学習 報交換が行われる 3-3 の支援 できる教員がいる ができる

事業目標で与えよう 実施する事業内容 10年後に実施されている事業の目標 重点事業を評価する基準 とする社会への影響 事業目標4:もっと使いやすい博物館へ 誰もがユニバーサルに楽しみ学ぶこ 誰もが楽しみ学べる博物館展示への 誰もに理解しやすい情報空間として展示 4-1 事業目標4 とができる展示になっている 成長 が利用される 湖と人間の最新情 展示を利用した人の中からフィールドへ 「観る」展示から「観る+使う」展 展示室と野外の現場をつなぐ仕組み 4-2 報が常に得られ現 ができる 出かける人が増える 示への成長 場への興味をもつ 来館者が全展示室で、最新の自然・ 人々が増える 湖と人間の関係を考えることができる場 -社会の変化や研究成果を反映させた 社会・研究状況を反映した情報を得 として利用される 展示の成長 られる 事業目標5:より多くの人が利用する博物館へ ウェブサイトによる情報提供で国内 館外からも博物館からの情報が得られ、 ICTを活用した琵琶湖の魅力とその 5-1 ▶ 外の人々が琵琶湖や博物館の魅力を 事業目標5 湖と人間について考えることができる 入口としての博物館の紹介 館内および館外か 集約された利用者の意見や評価が事業へ 各種調査・分析・評価結果が、事業 双方向の広報や各種調査・評価によ らも利用がしやす フィードバックされる利用しやすい博物 に反映される状態となっている る情報収集と事業への反映 くなり利用者が増 館を提供 える 利便性の高い博物館として満足度が上が 来館のための利便性が高まり、気軽 5-3 来館しやすい環境の整備 に訪問できるようになる る 事業目標6:博物館の活動を安定して継続する 安心・快適に利用できる場所として利用 改修によって施設環境が安定し、災 老朽化した施設の改修と災害への備 事業目標6 害に強い運営体制が整っている 者の満足度が上がる え 安心感がある場所 支援の受入制度のほか、各種のリ で安定的に継続し さまざまな立場からの活動支援があり継 安定した活動基盤を確保する仕組み ▶ ソース源が開拓され、多角化によっ た活動ができる づくり 続的に新たな活動が可能になる て活動基盤の安定化が進んでいる